

スポーツのけが任せて 国立甲府病院に専門センター



甲府市天神町の国立病院機構甲府病院は六月から、整形外科に「スポーツ・膝（ひざ）疾患治療センター」を開設した。ジャンプして着地した際などに故障することが多い膝を中心に、スポーツによるけが全般に対応する。同病院によると、スポーツのけがの治療を専門に掲げる施設は県内初。これまで県外の病院で手術を受けるケースが多かった靭帯（じんたい）損傷など、重症者の手術に積極的に当たっていく。

センターのスタッフは、整形外科の萩野哲男部長をはじめ落合聡司、若生政憲の三整形外科医と理学療法士三人。膝関節治療の第一人者である広島大の越智光夫教授に師事していた落合医師が、二〇〇五年十月に同病院に赴任したのを機に、内視鏡を使ったスポーツのけがの手術が増え、センターとして専門的に対応することにした。

内視鏡による手術は、従来の手術に比べて患者への負担が少ないのが利点。靭帯損傷の場合、従来は皮膚を十五センチほど切って手術するが、内視鏡を使えば三〜四センチで済む。術後に膝の曲がる角度も大きく、回復も早いという。

口コミで患者が増

〇六年に行った内視鏡を使った膝関節手術は九十一件で、内訳は前十字靭帯損傷を主とした靭帯再建術が二十四件、半月板手術が四十五件、関節軟骨手術が十四件など。靭帯再建術が年一、二件、半月板手術が年十件程度だった前年までと比べ、大幅に増えている。

件数が増えたのは、県内各病院からの紹介やスポーツ選手の口コミなどで、内視鏡手術のことが伝わっていったため。センター化には、「スポーツ医療の甲府病院」の存在を、さらに一般県民に広く知ってもらおう狙いがある。

萩野部長は「膝疾患に詳しいスタッフがそろい、以前なら都内の病院を紹介されていたような人のけがにも対応できるようになった。より多くの人に利用してほしい」と話している。

膝を中心に全般で

バレーボールの試合でスパイクを打ち、着地の際に左足の靭帯を損傷した主婦望月久美さん（39）＝甲府市＝は、五月八日に同病院で手術を受けた。最初に行った別の病院では、県外で手術を受けるよう言われたという。「家庭もあり、県外で入院して手術を受けるのは大きな負担。チームメイトに紹介され、ここで手術を受けられて本当に良かった」と話す。

萩野部長と落合医師は昨年四月から、山梨学院大ラグビー部のチームドクターを務めるなど、病院外でも活動している。練習中に右脚半月板を損傷し、手術を受けた商学部四年松下学さん（22）は「身近に専門家がいることで選手も安心でき、練習に専念できる」と信頼を寄せる。

病院を訪れる患者が行っているスポーツ種目は、バスケットボール、バレーボール、ラグビー、サッカーなどの球技、レスリング、スキーなどさまざま。膝以外のスポーツ傷害やスポーツ以外の膝疾患についても相談に応じている。診療受付は平日の午前八時半〜同十一時。

（写真）山梨学院大ラグビー部の選手（左）から、膝の回復具合を聞く整形外科の萩野哲男部長

【山梨日日新聞社 平成 19 年 6 月 19 日掲載】